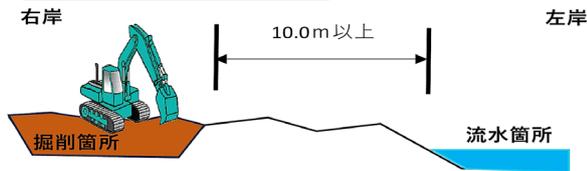




## 取り組み内容・対策例 (2/2)

### 工事施工時の配慮事項

#### 施工イメージ(横断方向)



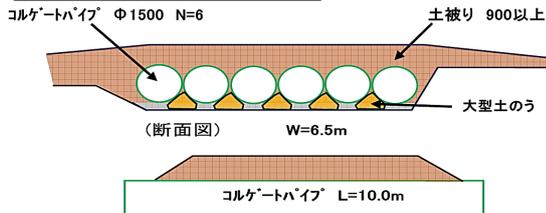
- ・掘削範囲は流水箇所より10m以上の離隔を確保。

#### 施工イメージ(縦断方向)



- ・掘削は下流から行き、急な湧水・出水時に沈砂池としての機能を確保。

#### 渡河施設



- ・渡河施設は流水部にコルゲートパイプを設置し、その上に盛土し、車両の通行路とする。
- ・コルゲートパイプの設置及び渡河施設施工時は河床をあまり触らないよう施工。

#### 掘削形状



- ・流路が安定しない網状河川のため、掘削形状を上下流方法に細長くし、2列施工とすることで洪水時、上下流一連の流路となるよう工夫している。

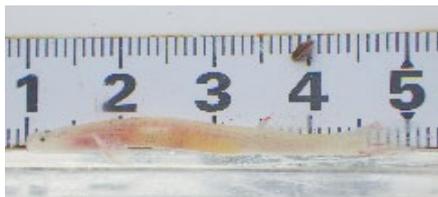
## モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

### <モニタリング結果>

施工時に濡筋を避けた掘削や濁水防止対策、踏み荒らし対策を行うことで、希少魚類への影響がなく保全されている。

令和7年度の河川水辺の国勢調査(魚類)では、藁科川でナガレミズハゼを確認し、安倍川下流域で環境DNA調査によってユウスイミズハゼを検知した。既往調査ではナガレミズハゼは確認されていないため、今回、安倍川の河川水辺の国勢調査で初めて確認した。

ナガレミズハゼは回遊魚であり、河川を遡上する際に伏流水が湧出する砂礫の深所(深さ約100cm)利用していると考えられる。また、ユウスイミズハゼは伏流水が湧出する砂礫の深所(深さ約20~100cm)に生息していると考えられる。そのため、安倍川下流域で実施された掘削や濁水防止対策、踏み荒らし対策は、河川間隙水域への影響を緩和し、ナガレミズハゼとユウスイミズハゼの遡上環境や生息環境の保全に寄与していることがうかがわれた。



ナガレミズハゼ(抱卵個体)R7.5.29



確認環境(瀬の岸際)安藁静1 R7.5.2

### <今後の対応>

河川環境保全のための取組内容を施工前に環境計画書として取りまとめ、安倍川、大井川希少魚類保全対策連絡会の委員と現地にて立会い確認を実施しており、有識者と工実施の具体的な内容について打合せを行い、工事に反映させることで、治水事業と環境保全対策が両立できるよう、引き続き取り組んでいく。

### <アピールポイント>

瀬や淵、河畔林、広い砂礫の河原、河口部の砂州や湿地状の環境等による多様な動植物の生息・生育環境の保全・再生、水質の改善及び流域の人々に親しまれる川づくりを行い、流域と一体となって良好な水質の保全に努める。

## 備考